

2013年(平成25)2月

カルメル
霊性センターニュース



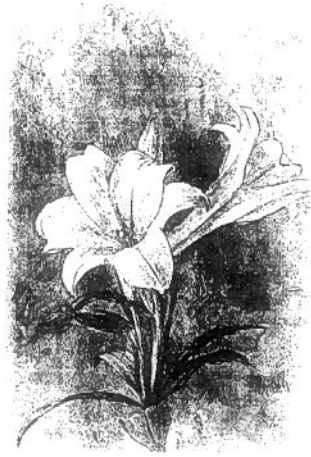
2013年2月

284号

目次

| | |
|--------------|----|
| 心の泉 | 1 |
| カルメル会の企画案内 | 19 |
| 諸所の企画案内 | 35 |
| 年間購読(郵送)のご案内 | 44 |
| 編集後記 | 45 |

心の泉



DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第一卷

第二十五章 生活を熱心に改める

3 闘いには報いがある

「主に信頼し、善をおこなえ」と、預言者は言っている。また、「この世で与えられた生活を営め、そうすれば天の喜びにあずかる」(詩編 37・3)とも。霊の完徳と熱烈な回心から、多くの人を遠ざけるのは、困難と、闘いの労苦をいとう心である。自分にとって一番辛く、おこないにくいことに勇ましく向かおうと努める人は、誰よりも徳の進歩が早い。人は誰でも、自分自身に打ち勝って、心を抑えれば抑えるほど徳に進み、より大きな恵みを受けるのである。

4 完全に立ち直る

しかし自分に打ち勝ち、自分を抑えるとしても、皆が同じ程度の欲望をもっているわけではない。ただ、もっとも熱心な人は、たくさんの邪欲に悩まされているにしても、生活が正しくて徳に進む熱意の足りない人より、完徳に向けて力強く進むであろう。自分を改善するにあたって、特に二つのことが役立つのである。墮落した人性が傾こうとする点を強く押し返し、自分にとってより必要な善を熱心に求めることである。また、あなたの気にいらぬ短所を他人のうちに見つけるなら、その短所を自分から遠ざけ、それに打ち勝つように、努めなければならないのである。

信仰年に

神と親しく生きるために - 2月 -



わたしたちの

信仰を

信じましょう！

～マリー・エウジェンヌ神父～

暖冬を予報されていましたが寒気が飛び込んできたのでしょうか冷え込みの激しい日々が続きます。そして二月を迎えようとしています。今年二月十三日は灰の水曜日、四旬節が始まります。ご復活までの四〇日間、荒れ野を旅して、約束の地、復活のキリストを目指してさらに信仰を深めてゆくことができますように。

現代社会は「見て 聞いて 確かめる」ことに重きをおきます。このようにすると信仰によって神に触れる確信はとかく揺らぐことになるでしょう。それで、マリー・エウジェンヌ師は言います、

「わたしたちの信仰を 信じましょう！」と。

受ける印象がどんなであったとしても、神はそこにおられます。

夜となく 昼となく

神よ わたしはあなたと共にいたい

わたしは信じます

あなたのみ前に静かにとどまります *

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

*～『神と親しく生きる いのりの道』より～

聖母文庫、聖母の騎士社

インドネシア紀行〈6〉

くのり
九里 彰

物見の塔からの眺めはすばらしく、あたりを一望できた。丘また丘…、焼畑農業のせいであろうか、木はあまり生えていない。牧草地が広がっているような感じである。そこから眺めれば、「迷える子羊」ならぬ「迷える子牛」を見つけられるというところであろう。

マロンゲラを4時過ぎに出発し、バジャワには7時半ごろ到着。8時ごろフェリックス管区長と二人の神父と4人で夕食を取る。(先月号でマロンゲラに志願者14人と書いたかもしれないが、志願者ではなく、その前の段階の希望者” aspirants”。志願者と修練者は、バジャワにいる。)

翌日のミサは、5時半。これは学校が7時半から始まるため、人々のために早くしているとのこと。そこで4時半に起きる。その日、志願長のアブドゥル神父の誕生日ということで、彼がミサを司式。約15人ほどの信者がミサに参加していた。

8時45分頃に、修道院を出発。全員が修道院前に集まり、記念撮影。お別れをしてくれる。バジャワ空港を10時過ぎに出発し、再びクーパンへもどる。一時間余の空の旅。空港から修道院までは車で数分。寒いバジャワから暖かなクーパンへ着き、ほっとする。遅い昼食を取り、シエスタ。夕の祈りは6時半。この後、全神学生が講話室に集合。フェリックス管区長が私をあらためて紹介。私が日本のカルメル会の歴史や現状について30分ほど簡単な話をし、質疑応答となる。8時頃、みな食堂に行き、夕食を取る。寝る前の祈りは9時。

翌日も4時半に起床。朝の祈りの後、管区第一顧問のベルト神父とミサを立てる。彼は、失礼だが、外見と異なり、大変なインテリである。三つの大学で神学の講師をしており、すでにインドネシア語で何冊も本を出している。午後は、彼がクーパンの名所？を車で案内してくれる。日本の協力で建設されたダムとヤシのはえている海岸へ。ヤシはフィリピンの物より大きく、このジュースを全部飲むのは苦行であった。町にもどり、町の中心部に住んでいるカルメル宣教修道女会を訪問。(続く)

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（162）



実りを信じること

私たちは、自分の働きの結果を見たいと望んでいる世代に属しています。私たちは、生産的であること、また自分がやったことを自分の目でみることを望んでいます。けれども、それは神の国のやり方ではありません。しばしば神に対する私たちの証しは、明確な結果をもたらしません。イエス自身も、失敗したかのように十字架の上で亡くなりました。そこには誇るような成功は何もありません。しかし、イエスの実りのない生涯は、人間の尺度を超えています。イエスの忠実な証しのように、私たちは、たとえ自分の生涯の実りを見ることができなくても、実り豊かであると信じなくてはなりません。私たちの生涯の実りは、私たちの後から来る人々にのみ見えるものとなるかもしれないのです。

重要なことは、私たちがどれだけよく愛しているかということです。私たちがその実りを見ようと見まいと、神は私たちの愛を実り豊かなものとしてくださることでしょう。

(0811)

霊の実り

神の霊は、どのように私たちを通して自らを現わすのでしょうか。しばしば私たちは、証しすることとは、神を守るために弁護することだと考えています。この考えは、私たちを自意識過剰にします。私たちは、どこで、どのように神を会話の話題にすべきか、またどのように家族や友達や隣人や仲間、生活の中におられる神の現存を悟らせようかとやきもきします。けれども、このあからさまな宣教の試みは、しばしば不確かな心から生じているので、たやすく分裂を生み出します。

神の霊がきわめて説得力ある仕方でも自らを現す方法は、その実り「愛、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制」（ガラ 5・22）です。これらの実りが、自ら語ります。それゆえ、「どのようにして私は他者に霊を信じさせることができるか」と問うより、「どのようにして私は霊の内に成長できるのか」と問う方が、いつもずっと良いのです。

(0619)

(九里 彰訳)

年間第4主日(C)

みことばのひびき

(ルカ 4:21-30)

本日の福音は、先週の日曜日の続きです。神の愛と同様にイエスの使命が一つの社会的、宗教的なグループに限られていないということを語っています。人が必要なところではどこでも、神の愛は始まるということを、ナザレの人たちは理解しませんでした。エリヤはシドンを旅し、エリシャはシリア人を清くし、イザヤは貧しい人たちにはよい知らせを、捕われ人には自由を教えたということを、誰も語っていませんでした。その上、イエスは彼らにとって矛盾だらけでした。イエスの使命は貧しい人たちを重視しましたが、金持ちの人たちとも食事をしました。イエスは使徒たちが野心的であることで叱責しましたが、心では富んでいるように求め、貧しく飢えている人に奉仕し、食べものを与えるように求めました。イエスのメッセージは全ての人に向けられていて、だれ一人免れないことをイエスは明らかにしました。使徒たちは生活の歩みから選ばれました。シナゴグでイエスは彼らに挑戦し、ご自分はエリヤやエリシャの似姿であると言われました。これは人々には冒瀆でした。しかし、イエスのあらゆる言葉や歩みは神の愛の現れであり、これはいつまでも続くことです。最も愛に生きた人であるイエスのように、私たちも自分の善良さや完全さの故に排斥されたり、憎まれたり、完全に破滅させられたりするかもしれません。

本日の聖書の言葉を黙想すると、神が非常に個人的な方法でご自分の愛を現わしてくださっていることを知ります。イエス・キリストのご托身により、神は私たちの中にお住みになるようになりました。神はご自分が真に聖で、完全で、永遠で、あわれみ深く、寛大であることを知らせるために、ご自分は神であるにもかかわらず人間の姿をとり私たちの中に住まわれました。イエスのようなかたはほかにありません。私たちが永遠の命を得るために独り子を与えてくださるほど神はこの世を愛されたとき、聖ヨハネは語っています。神が私たちの中にお住みになるために下りて来られたとき、全ての人が神の愛を受け入れたものではありません。旧約聖書の中で、私たちは預言者たちが自分の郷里やその人からどれほど拒否されたかを知ることができます。イエスも郷里の人たちから同じような排斥を経験します。彼らの基準に合わなかったのです。彼らはイエスを子どものときから知っていたので、特別の存在ではなかったのです。親しいということとその人の人間的なことを超えたものを見えなくします。これは、人間のあらゆる場合に当てはまります。しかし聖書は、私たち一人ひとりの中に確かに神がおられると言っています。また、福音は聖霊の内在について他の人たちが知ることの助けとなるように私たちを招いています。私たちは霊を認めるように自分の内的な目を開くことが必要です。

私たちがより多く愛すれば愛するほど、私たちの愛は、人と人を分け隔てているラベルや偏見を超越するとき、より多くの人を抱きしめることと、「宗教的な」人によってさえ、私たちが排斥され、迫害され、憎まれやすいということは矛盾であり、パラドックスです。真理と愛のメッセージが排斥され、攻撃され、悪用されてきた一方で、人は続行する特別の力を経験してきました。イエスの生涯がはっきり示しているように、愛の人であるために支払わなければならない代価はありますが、それは支払う価値のある代価です。

(Sr. Paulina)

「先生、わたしたちは、夜通し苦勞しましたが、何も取れませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」(ルカ 5, 1)。

「神の言葉」との表現が頻繁に出てくることは、ルカによって書かれた二つの文書、「ルカによる福音」と「使徒言行録」の特徴の一つとなっています。多分、この二つの文書は、本来は一つの連続したものであったのでしょうか。イエスとその弟子たちは、同じ使命、「神の言葉」への奉仕に生きる者であると強かに主張しているのでしょうか。今日の福音では、イエスと同じように神の言葉、福音の奉仕に生きるように招かれる者の召命の典型、原像が、シモン・ペトロの招きを通して示されています。人間が、どのようにすれば、イエスのように「神の言葉」への奉仕を継続して行けるのでしょうか。どんな資格、どんな準備が要求されているのでしょうか。

求められるものの一つは、自分の経験、知識への自信を浄化するイエスから与えられる言葉への従順です。ペトロは生粋のガリラヤ湖の漁師です。漁については大工の息子のイエスより熟知しているとの自負があります。その彼が、「沖に漕ぎ出して網を下ろし、漁をなささい」とのイエスの言葉に対して、「夜通し苦勞しましたが、何もとれませんでした」と反応しています。この言葉の中に、ペトロの複雑な気持ちが読み取れるのではないのでしょうか。「こと漁に関しては、あなたに指図されたくない」との反発心もあったのかもしれませんが。しかし、姑の高い熱からの癒しを体験した後は、きっと、もっと謙虚な気持ち、自分の知識や経験、技量の限界を認める気持ちが勝っていたのでしょうか。「しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう」との言葉に、ペトロの心の揺れは収斂しています。

第二は、もっと根源的なものですが、イエスは、罪人である自分を救うために来られたとの自覚です。「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである」(ルカ 5, 32)。この歩みを、イエスによる不思議な漁の体験で、ペトロは始めさせていただいています。「主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです」。確かに、ペトロは不思議な漁を見て、イエスの中に人間を超えた聖なる神の現存を感じ取ったのです。しかし、彼が、自分がどれほどまでにイエス、「神の言葉」を必要としているかを実感する旅は始まったばかりです。ルカ渡辺幹夫

四旬節第1主日 (ルカ4:1-13)

四旬節第一主日の福音はイエスが荒れ野でお受けになった様々の誘惑について述べている。

四十日もの間、荒れ野で何も食わずに過ごされたイエスの姿は、エジプトから導き出したイスラエルの民と40年を荒れ野で過ごしたモーセを思い起こさせます。モーセは最後に神のメッセージである十戒を受け、これを民の前で明らかにしていきます。同様にイエスはナザレの諸会堂で、宣教活動の開始と、ご自分がメシアであることを人々に宣言され、この直前に受けた悪魔の誘惑に対し、イエスは聖書のみことばをもって撃退なさいます。モーセは旧約のイスラエル人ですが、イエスは公に宣教活動を始める前に、祈るために荒れ野に退かれる新約のイスラエル人です。この二人の違いは、モーセが荒れ野での様々の誘惑に負けたのに対しイエスは誘惑を克服なさいました。事実、その誘惑は類似しています。モーセはパンを神に願い、神はマナをお与えになります。イエスも空腹を覚えられますが、自分のために奇跡を行おうとはせず、神のみことばをいのちの糧となさいます。モーセの民は金の雄牛を造りこれを拝みますが、イエスはこの世の栄光を拒否し、神を礼拝することが第一であると断言されます。モーセの民が神に水を要求すると、神は水をお与えになります。イエスにおける神の現存を試みようとして、悪魔がイエスに神殿の屋根の端から飛び降りよう命じると、常に神の思いと一致しておられるイエスは直ちにこれを拒絶なさいます。

イエスに向けられたこれらの誘惑は一つの目的を持っています；神である父に対して不忠実にさせること。御父はイエスに、そのご生涯を通して、特に自ら引き受けられた十字架の苦しみと死によって、この世を救う使命をお与えになりました。サタンは今この使命を達成するためと称して易しい道を示します。イエスはこの誘惑に屈服せず、神のみ旨の道を選ばれます。今日の福音の最後は“悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。”と告げています。これは悪魔との戦いが終わったわけではないと言っているのです。宣教活動の間に、特別にゲッセマネの園で、またそれに続く十字架のご受難の最後のときに、悪魔の誘惑は何度も繰り返されています。同じことが私たちにも言えるのです；利己心、貪欲、怒り、敵意、嫉妬、憤慨など、何よりも欲望が一番大きな誘惑です。誘惑に挑み打ち勝つことによって、私たちは自分の生活空間を、イエスのメッセージである真の愛と平和に満ちた社会にすることが出来るのです。それは神の恩寵によってのみ出来ることです。

様々の誘惑は本来自分のあるべき姿を再確認させます。イエスが受けられた三つの誘惑は、イエスがイスラエルの伝統を引き継ぐ者として来られ、その様に行動されたことを知らせています。悪魔との出会いは、神の支配とサタンの支配の真の力の衝突を証明しています。イエスは悪魔の誘惑に抵抗し、悪の力に対抗する方法を示して下さる先生です。これらの誘惑は、私たち一人ひとりが皆荒れ野で試されていることを知らせています。これは旧約のイスラエル人、モーセに当てはまることでしたし、イエスに当てはまることでしたし、今を生きる私たちにも当てはまることです。

(Sr. Paulina)

「二人（モーセとエリア）は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた」（ルカ 9, 31）。

四旬節第二主日には、年毎に報告する福音記者は異なるのですが、受難を前にするイエスに起こった同じ出来事、御変容の記事が読めます。それぞれの福音記者にとって、この同一出来事がそれぞれ異なった重要性、強調する観点、特色を持っていることが、大変興味を引くところです。今年は、ルカによるものですが、その記事には、彼の特徴がいくつかの側面で顔を出しています。ルカは、この場面をイエスの夜間の祈りの中に設定しているようなのです。イエスの祈りを強調するのは、ルカの特色ですが、特に夜間のものに光を当てています。イエスの宣教活動を継続し、教会を建設するために重要な意味を持つ十二弟子たちの選定の前にも、「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」（ルカ 6, 12）、また、ご自分にとって決定的な意義を持つ受難の前夜、「苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた」（ルカ 22, 44）とあります。御変容の時刻については明記されてはいませんが、「ペトロと仲間は、ひどく眠かった」と指摘され、無論この眠気は、神の秘義を前にする人間の無力さを暗示するものですが（第一朗読での神の約束宣言に立ち会うアブラハムのように）、また、実際に夜間であったことを示唆してもいます。もう一つ、夜であったと想定させる理由は、イエスがモーセとエリアと語り合っていた内容です。「エルサレムで遂げようとしておられる最後」と日本語訳ではなっていますが、原文では「最後」ではなく「エクソダス」、つまり、脱出、出エジプト、奴隷の土地から乳と蜂蜜の流れる約束の国への脱出、解放の旅、モーセに導かれた旅を特定化する単語です。この旅の最も劇的な場面、紅海渡海は、夜間に実現されます。エリヤも四十日四十夜旅をしてホレブに至っています。そして、モーセもエリアも、最期は、天の不思議な過ぎ越しに終わります。夜の強調は、すでに触れたように、人間には関与することもできない、また、徹底的に知りつくこともできない、神の秘義、人間の救いを実現する神の愛の計画の神秘、具体的に言えば、十字架の死を通しての生命、復活の勝利の秘義、その前では、人間には、沈黙の内に、信頼をこめた委託、信じますとの信仰宣言だけが、期待されているのです。議論でも、討議でも、また理解しつくすことでもなく、沈黙、祈り、観想に開かれた沈黙です。主導権を取られるのは神。「『これはわたしの子、選ばれた者、これに聞け』と言う声が雲の中から聞こえたまた」。この御声は、わたしたちを、祈る沈黙の内に招くものです。「弟子たちは沈黙を守り……」。ルカ 渡辺幹夫

お正月の新聞に、一富士二鷹三茄子の話がありました。

昔から縁起の良い夢のベスト3と云われ、特に初夢としては格別なのだそう
です。 残念ながら、私はどの夢も一度もみたことがありません。いいえ、正
しい言い方をするなら、万が一みていたとしても覚えていないというべきなの
でしょう。 なぜなら、人は誰しも一晩に5・6回の夢をみるのですが、夢と
は、目が覚めているときの意識とはつながり難いものなので、夢を覚えている
こと自体案外にむずかしいというのです。

夢と聞けばフロイトやユングの名が浮かび、夢分析、夢判断といった専門分
野を思いますが、そのような学問的なことではなく全くの手慰みの範ちゅうで、
実は私は昔から夢というものに大変に興味をひかれています。

夢辞典や夢占いの本をいつも数冊並べて、気にかかった夢をたとえ断片であ
ってもあれこれと調べ、納得したり、納得しなかったり、安心したり、わが身
を省みたりと、際限なく遊んでいます。

これ等の本に載っている夢の判断や解釈の項は、古今東西いずれの時代、い
ずれの国、何人の夢にも当てはまることとされ、その不思議さをあれこれ延々
と考え、思いめぐらせていると、無意識という途方もない広大な深遠な世界が
迫り、立ちほだかり、目が眩むような神秘の念に打たれるのです。

夢物語、夢のお告げ、夢解きの話は、とにかく人類始まって以来何処の歴史
にも必ず登場していて、古代の洞窟の壁画にも夢の話が描かれているときま
す。 旧約聖書のヨセフの夢解きは有名で面白く、また、新約聖書も例えば身
重になったマリアを妻とするヨセフは、何と夢をみてそのお告げに従ってい
るのです。 私自身の救いの歴史のなかに、こうした夢というものが挿し入
れられているのを知るとき、なぜか深く感じ入るものがあります。

私たちのこの世の生は、当然のことながら苦しみや悲しみを避けることはで
きません。私たちは行き場のない欲求や願望、痛み、深傷を抱えこむのですが、
今ここを生きるためにはそこにさまざまな規制をかけるのかもしれない。
抑圧、防衛、葛藤・・・我知らずして意識の届かない深部へ抑えこみ重ねていく
のでしょうか。

こう云う私自身、抑圧の強さは人後に落ちないと知っています。

夢というのは、意識にのぼることのないこの悲しみを密かに解放し、精神のバランスをとる働きをしているといます。自分の中の自分で知ることのないこの仕組み、そして無意識と云われる豊饒な領域を思うと深々と安堵を覚えるのはなぜなのでしょう。

その上、私という個人の歴史に備わっている無意識層は、更には「私」を越えて人類としてるいと重ねてきた歴大な人類共通の無意識層に連なっているといます。世界中にある神話、伝説は、その証の片鱗を現しているそうです。もはやお手上げ状態の遥かな遥かな「夢のような話」なので、私は逆に涙ぐみたいほど身に近く、身に親しく感じるのはなぜなのでしょう。

私は冬の木立が好きです。

身を覆うかに手にしていた実りを落とし、遂には最後の一葉さえも手離して、更には自ら自身をも明け渡すかに、ただ天だけに抱かれるしかない赤裸の姿です。それは、召命にめざめ、使命を全うし、赤裸となって身を差し出す被造物本来の姿に思われて、私は憧れをもって空を見上げ、日常生活の今ここに立つのです。

そして、意識、無意識の次元を絶してもっと広く、もっと深く、魂の深奥に独り住まわれる私の主、私の神に目をあげます。一切の境をなくしてひとつになりたいとの狂おしい念いに導かれ、徐々に注がれる光によって闇を開かれ、激しく引き寄せられていく私の主、私の神への道程は、冬の木立が示すあの姿が到達点であるでしょう。

身の内にいるいと重ねてきた限りない哀しみ、抑圧、防衛、葛藤・・・その具体的なひとつひとつが、神によって神と共に神をめざすこの道程で、夢よりも深く、夢よりも確かに解き放たれ、抱きとられ、救われていくことを私の魂は深く知っています。

そのメカニズムにロマンさえ感じる夢とは、私たちにとって一体何ほどのものであるのでしょうか。奥深く何ものかが懸命な働きをするのだと思うのですが、精神医学？ 心理学？ 自然科学？ 主の使い？ 神のお告げ？

今宵もまた、私は5・6回の夢をみる筈です。

いのちの言葉 1月

「わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない」とはどういう意味か、行って学びなさい。

(マタイ9・13) * 1

「わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない」

イエスがこう言われた時のことを覚えていますか。徴税人や罪人と共に食卓についておられるイエスを見て、ファリサイ派の人々は弟子たちに尋ねました。「なぜ、あなたたちの先生は徴税人や罪人と一緒に食事をするのか」と。するとイエスはお答えになります。「『わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、行って学びなさい。」

イエスは、引用された預言者ホセアの言葉を大切にしておられたのででしょう。それはイエスご自身が従われた規則であり、愛が他のあらゆる掟やルール、きまりにまさることを示すものです。これこそがキリスト教です。「神様の第一のお望みは私たちが全ての人を愛すること」だと伝えるため、イエスは地上に来られました。この神のみ旨は、預言者の言葉にある通り、聖書の中ですでに告げられていたものです。

キリスト者一人ひとりにとって、愛は人生の課題、行動の原点、判断の基準となるもの、いかなる時にも他の掟に先立つものです。むしろ、隣人への愛が基盤にあってこそ、キリスト者は他のすべての規則も正しく果たすことができます。

イエスは愛を望んでおられ、憐れみは愛の表現の一つです。イエスがキリスト者にこうした生き方を望まれるのは、何よりも神様ご自身がこのような方だからです。イエスにとって、神様は何よりも

まず、憐れみ深い方です。すべての人を愛し、善人にも悪人にも太陽を昇らせ、雨を降らせる父親でおられます。イエスはすべての人を愛しておられたので、罪人と席を共にすることを恐れず、むしろ、そうすることにより、神様がどんな方かをお示しになりました。神様もイエスもこのような方であるなら、私たちも同じ心を持つ必要があるでしょう。

「わたしが求めるのは憐れみであって、いけにえではない」

「…いけにえではない」

もしあなたが兄弟を愛していないなら、礼拝を捧げても、イエスはお喜びにならないでしょう。祈りや聖体拝領、捧げものも、もし、すべての人への愛で満たされた心、皆と平和の内に生きる心から生まれなければ、イエスは受け取ってくださらないでしょう。

山上の垂訓の中ではっきりと語られた彼の言葉を覚えていますか。「あなたが祭壇に供え物を献げようとし、兄弟が自分に反感を持っているのをそこで思い出したなら、その供え物を祭壇の前に置き、まず行って兄弟と仲直りをし、それから帰って来て、供え物を献げなさい。」* 2

神様が好まれる礼拝とは、隣人への愛であり、この愛が礼拝の土台にもなるべきだとイエスは教えておられます。

あなたが父親に何か贈り物をしたいと思っている時に、もし自分の兄弟に対して、または兄弟があなたに対して、腹を

立っているなら、父親はあなたに何と
言うでしょうか。「まず兄弟と仲直りをして、
それから何でもお前がいいと思うものを
贈っておくれ」と言うことでしょう。

愛は、キリスト者の生活の基盤となる
だけでなく、神様との交わりを生きる一
番の近道でもあります。これは、福音の
証人である聖人たちが語り、信仰を真に
生きるキリスト者たちが経験しているこ
とです。自分の兄弟、特に困難にある人々
を助けるなら、私たちの信仰は深まり、
神様との一致は一層強くなります。自分
が神様とつながっているのを感じるので、
生活はもっと喜びに満ちたものとなりま
す。

では、この「いのちの言葉」をどのよ
うに生きればいでしょうか。出会う人
を誰も差別したり疎外したりせず、むしろ
御父に倣って、どんな人にもできる限
りのことをしてみましょう。もし誰かと
不和の関係にあって、それがあなたの心
の重荷になっているなら、問題の大小に
かわらず解決しましょう。不和の状態
を神様は喜ばれません。聖書にあるよ
うに*3、日が暮れるまで、誰に対しても
怒ったままでいないようにしましょう。

このように生きるなら、あなたの行い
のすべては神様から喜ばれ、永遠に残る
ものとなるでしょう。働くにしても休む
にしても、遊ぶにしても勉強するにし
ても、子どもと共に過ごすにしても夫や妻
と散歩に出るにしても、祈ったり犠牲を
払ったり、キリスト者の務めを果たし
たりする時も、すべてのあなたの行いは、
神のみ国に入るための大切な材料とな
るでしょう。

天国は地上で築き、次の世で住む家
です。そしてこの家は、愛によって築か
れます。

キアラ・ルービック

*1 ホセア書6・6参照

*2 マタイ5・23-24

*3 エフェソ4・26参照

* フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、
2008年3月14日に帰天した後、彼女が過
去に残した解説を「いのちの言葉」として取り
上げています。今月の言葉は、1996年6月
に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活
の中で実践するための助けとして、書かれ
たものです。**

●お知らせ

家庭的な喜びの雰囲気の中で

関東： **いのちの言葉の集い**

とき： 1月13日（日）

13：30から

ところ：カトリック藤沢教会204号室
にて

（前回とは時間・場所共に変わります。）

長崎： **いのちの言葉の集い**

とき：1月27日（日）

14：00～16：00

ところ：浦上教会 要理教室

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocan.jp/>

いのちの言葉 2月

わたしたちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。
兄弟を愛しているからです。

(ヨハネの手紙一 3・14)

使徒ヨハネは、自ら築いたキリスト者共同体が大きな困難にあった時、彼らにこの手紙を書きました。その頃、信仰や道徳に関する誤った教義や異端が広がり始めた上、キリスト者は、福音の精神に敵対する、困難な異教の社会に生きていたからです。

ヨハネは彼らを助けるための根本的解決策を説いています。それは「兄弟を愛する」こと、キリスト者が初めから受けた掟であり、あらゆる掟が要約された「愛の掟」を生きることです。

これを果たすなら、キリスト者は「いのち」とは何かを知り、ますます神との一致に導かれ、神が愛であることを体験するようになります。この体験をする時、人は信仰が強められ、危機的状況の中でも、あらゆる攻撃に立ち向かうことができるでしょう。

わたしたちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。

「わたしたちは…知っています」と、ヨハネは自分の経験から理解したことを伝えており、「私たちはこれを体験し、手で触れた」と語っているかのようです。これは、ヨハネから福音を受けたキリスト者たちが回心のはじめにした経験です。神の掟、とりわけ兄弟への愛の掟を実行する時、人は神のいのちに導かれるという経験です。

このような経験を、現代のキリスト者はしているのでしょうか。主の掟が実践を

意図するのは、皆が知っているでしょう。イエスは、神のみ言葉は聞くだけでは足りず、実行しなければならないと、絶えず教えておられます。(マタイ5・19、7・21、7・26参照)

私たちが愛の掟を生きる時、神は私たちをご自分のものとされます。これは、ヨハネが強調する、キリスト者の生活のすばらしい一面ですが、多くのキリスト者は、これを理論だけで捉えたり、実際の経験がなかったりするため、あまり意識していないでしょう。神のものとなる時、私たちは今すでにこの地上で「いのち、喜び、平和」を味わうようになり、生活は輝きを帯び、調和に満たされようになります。信仰と生活の間に分裂はなくなり、信仰は私たちのすべての行いを貫き、結ぶ力となります。

わたしたちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。

このみ言葉は、隣人への愛が私たちが神に導く王道であることを教えています。私たちが皆、神の子であるなら、兄弟への愛ほど、神のみ心にかなうものはありません。兄弟を愛すること以上に、神に大きな喜びを与えるものはないのです。

兄弟への愛は、私たちに神との一致をもたらし、泉のように私たちの心をいつも光で満たし、いのちと霊的な富をもたらし、私たちを絶えず新たにします。キリスト者の墮落やマンネリ化を防ぎ、一言でいうと私たちを「死から命へ」移

します。逆に愛が欠けると、すべては色あせ、死に至ります。実際、私たちが生きる社会では、情熱や理想が失われ、生ぬるい生活や倦怠感、現実からの逃避や価値観の喪失が見受けられます。

ここで使徒ヨハネが言う「兄弟」とは、だれよりもまず、私たちが属する共同体の人を指します。もしすべての人を愛する必要があるなら、私たちは、日々共に生きる人から愛し始め、次第に全人類に向かってこの愛を広げてゆくべきでしょう。ですから、まず自分の家族、職場の同僚、同じ小教区の人たち、また修道会や共同体に属しているなら、会のメンバーを考える必要があります。さもなければ、兄弟に対する私たちの愛は、秩序ある、真の愛とは言えないでしょう。私たちはどこにいても、神の子らで成る「家族」を築くよう、招かれています。

わたしたちは、自分が死から命へと移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。

このいのちの言葉は、私たちに新たな視野を開くものです。キリスト教の愛という聖なる冒険に私たちを導き、思いも寄らぬ解決策を生み出します。この世では対立があり、力ある者やする賢い人が幅をきかせ、物質主義や利己主義が広がっていますが、こうした世に対する答えは「隣人愛」だと、今月のみ言葉は思い出させてくれます。これこそ、世を癒す薬です。実際、私たちが愛の掟を生きる時、自分が生き生きとするだけでなく、周囲に影響が及びます。この愛は、神聖な熱風のように光を放って広がりながら、人と人、グループとグループの関係に浸透し、社会を少しずつ変えていきます。

では決心しましょう。イエスの名において愛すべき兄弟は、私たちの近くにいつもいます。この愛に忠実にとどまり、他の多くの人々も忠実でいられるよう助けましょう。その時、私たちは魂に神との一致を感じるでしょう。信仰は再び生

き生きとし、疑いや倦怠感は消え、生活は満ち満ちたものなるでしょう。

キアラ・ルービック

*フォコラーレの創作者キアラ・ルービックが、2008年3月14日に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げています。今月の言葉は、1985年5月に発表されたものです。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

●お知らせ

家庭的な喜びの雰囲気の中で

関東： 1日マリアポリ

と き：3月20日（水・祝）

10：30～16：00

（昼食をご持参下さい）

ところ：聖イグナチオ教会・

ヨゼフホール

（四ツ谷駅から徒歩1分）

関東：いのちの言葉の集い

とき： 2月10日（日）

13：30から

ところ：カトリック藤沢教会 204号室

長崎：いのちの言葉の集い

とき：2月24日（日）

14：00から16：00まで

ところ：浦上教会 要理教室

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

<http://focolare.world.coocon.jp/>

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (66)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

履^り足^{そく}ですか 跣^{せん}足^{そく}ですか

この話は、召命にまつわるジレンマでも二者択一でもありません。とてもずっと単純な事柄です。

聖人がご託身修道院の聴罪司祭（1572-1577）であった時、この奉仕職の最初の時期に、一人の修道女が告解場に近づき、「アベマリア・プリッシマ（ごめんくださいの意）」とか「神父様、祝福をお願いします」と言う前に、

「履足カルメルですか、跣足カルメルですか」（訳注：文字どおりには「履物を履いてますか、履いてませんか」の意）とたずねました。

ヨハネ修士は、すばやく修道服の裾で足を隠しながら、答えました。

「娘よ、私は履いています（estar）」。（訳注：「私は履足カルメルです」の意味とも取れる。）

この場合、“ser”という動詞の代わりに、“estar”という動詞がとても役に立ちました。二つの動詞を上手に使い分けられない外国人にとって、よい逸話、よい冗談でしょう。

《訳者解説》

スペイン語では、英語の“be”動詞が、場合によって、“estar”と“ser”に使い分けられます。「私は病気です」と言う時の「です」は、“estar”。「私は日本人です」と言う時の「です」は、“ser”。つまり、自分の状態が変化する場合は、“estar”。どこへ行こうが年を取ろうが、自分の本質に属し、変化しない事柄は、“ser”というわけです。十字架の聖ヨハネは、その時、サンダルを履いていたのでしょ。う。ですから、“estar”を使ったのです。もし“ser”を使えば、「私は、跣足カルメル会士ではなく、履足カルメル会士です」の意味になります。

では、質問。「私は美しいです」の「です」は、“estar” でしょうか、“ser” でしょうか。



*****絵本のための小さなおはなし*****

「赤ずきんきのこの絵のお話」

ある日、赤ちゃんきのこはおおかみのところに尋ねて行きました。

「おおかみさん、わたしを食べてください」

おおかみは確かにおなかがすいていたのですが、びっくりしてこういいました。

「どうして」

「だって早くかみさまのところにいきたいから」

おおかみは腕組みをしました。

「まあそんなこと言わないで、ゆっくりしていけよ」

そしてその晩、腹ぺこのおおかみは赤ちゃんキノコを抱っこして寝ました。

翌朝、しぼりたてのミルクを入れた熱い紅茶だけで、おおかみは赤ちゃんキノコと一緒に朝ごはんをしました。そしておおかみはキノコを家へ帰るために送りだしました。赤ちゃんキノコは別れるときににっこりしてさざ波のように揺れて笑いました。そして振り返らずに帰って行きました。」



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



<< Communications (時事通信) >>

布教国アルバニア

ピサーイタリア発 (2013年1月1日)

2011年12月にアルバニアでの布教活動の計画が開始されました。最初の旅は2012年1月に行われました。この布教プロジェクトは中央イタリア・コミッサリアートの取り組みによるものです。初めの基礎の土台となったのは、2003年にネンシャットからアルバニアに到着した跣足カルメル会修道女たちの受入れでした。その修道院はコソボ国境に近いトゥロポイア山岳地域にあります。

2012年の間、私たちは、足病治療医、薬剤師、栄養士、二人のエンジニア、弁護士、そしてさまざまな若い学生たちといった信徒の助けによって、めいめい違ったときにその地に行きました。彼らは皆で夏の間移動クリニックを実施して大きな助けをあたえてくれました。若い信徒たちは、活動、ゲーム、典礼、そして全体の物流を担当してくれました。

アルバニアの山岳地域の貧困は想像を絶する状態です。資源が非常に乏しいためあらゆるところで、いろいろなレベルにおいて汚職退廃状態がはびこっており、それが国の経済復興に影響を及ぼしています。この国では、至る所、独裁政権の兆候が明らかになってきています。

2013年のはじめに、ピサの男子修道院で衣服や薬品を集める具体的な活動をしてから、彼らは再びアルバニアに戻ります。新しい年にこの布教国での協力体制を強化するためです。現在、この大切なプロジェクトに協力してもらうために、参与するために、サペ教区の司教と話し合いを続けています。



カルメル会の企画案内



上野毛靈性センター ～ '14年3月

黙想企画 ** 聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

2013年 3月28日(木)～31日(日)《講話なし、各食事つき》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年度 年間テーマ 「信仰と宣教」

3月 7日 「イエスとの出会いをもたらす宣教」 中川博道神父

7月 4日 「弟子たちの不信仰と異邦人の信仰」 福田正範神父

11月14日 「カルメルにおける宣教」 中川博道神父

12月 5日 「神の愚かさ、宣教の愚かさ」 福田正範神父

2014年

2月20日 「復活の主の第一の使信」 福田正範神父

3. 金曜黙想会 (毎回金曜日10時～16時) 予約は3ヶ月前より受け付けします。

2013年

2月22日 「カルメルの靈性・カルメルの原始会則の靈性」 渡辺幹夫神父

4月19日 「カルメルの靈性・預言者聖エリア」 福田正範神父

6月 7日 「カルメルの靈性・ロスアンデスの聖テレサ」 古川利雅神父

10月 4日 「カルメルの靈性・ラウレンシオ修士」 古川利雅神父

2014年

1月24日 「カルメルの靈性・聖母マリア」 福田正範神父

4. 奉献生活者の為の黙想会

2013年

7月29日(月)18時～ 8月 7日(水) 九里彰神父

8月12日(月)18時～ 8月21日(水) 福田正範神父

10月 7日(月)18時～10月12日(土) 福田正範神父

12月27日(金)18時～2014年1月5日(日) 古川利雅神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

4月27日(土) 15時～29日(月・休) 16時

11月 2日(土) 15時～ 4日(月・振休) 16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2013年

9月21日(土) 15時～23日(月・休) 16時

7. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2013年

3月17日(日) 18時～3月19日(火) 16時 「過ぎ越しの子羊・キリスト」

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2013年

5月24日(金) 20時～26日(日) 16時

11月 8日(金) 20時～10日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。

またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いません
のでなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

金曜黙想会

2013年度年間テーマ《カルメルの靈性》

カルメルの原始会則の靈性

日 時： 2013年2月22日（金） 10時～16時

指 導： 渡辺 幹夫 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL.03-5706-7355

FAX. 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・* 黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX, メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

木曜黙想会

2013年度年間テーマ《信仰と宣教》

イエスとの出会いをもたらす宣教

日 時： 2013年3月 7日（木） 10時～16時

指 導： 中川 博道 師（カルメル会上野毛修道院司祭）

場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院
（黙想の家）

会 費： ￥3500（昼食を含む）



お問合せ・・・TEL.03-5706-7355

FAX. 03-3704-1764

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

お申込み・・・*黙想会の3か月前より申込みを受付します

FAX, メール、ハガキにてお願い致します。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）



講座のご案内

■場所： カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当： 中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

2013年 2月26日

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

2013年 3月1日

キリストとの親しさ

朝のクラス・火曜日

《10:30~12:00》

2013年 2月12日

3月12日

夜のクラス・金曜日

《19:15~20:45》

2013年 2月15日

3月15日

キリスト教の基本を学ぶ

—洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に—

いずれも 金曜日

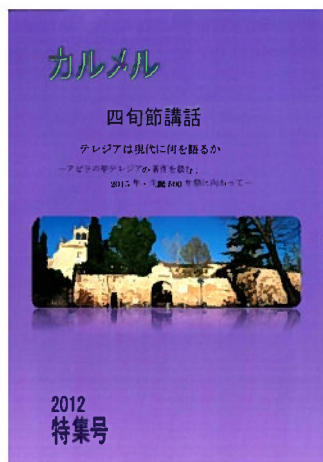
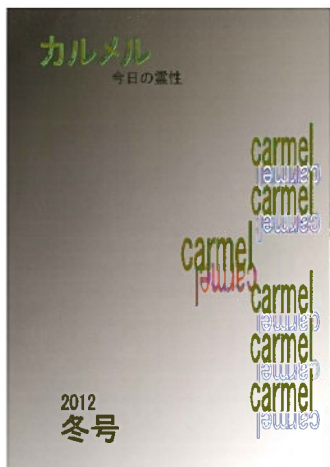
朝のクラス《10:30~12:00》

夜のクラス《19:30~21:00》

| | | |
|----|-------|-------------------|
| 18 | 2月8日 | 「主の祈り」 |
| 19 | 2月22日 | 「キリスト者が大切にしていること」 |
| 20 | 3月8日 | 「秘跡」(1) |
| 21 | 3月22日 | 「秘跡」(2) |

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

「カルメル」
今日の霊性・秋号
特集号・四旬節講話



2012 冬 No.347

カルメル 2012 特集号

「テレジアは現代に何を語るか」

紗藻の修道院に入る (3) 奥村一郎 52

悲しむこと、生きること、つながること、そして… 谷口正子 46

— ある高位聖職者の断悔

聖性への招き 十字架の聖ヨハネに導かれて (9) 40

愛宕までの長い道のり マリー・エウジェニス 藤・辰 伊藤留子

修道院生活 春夏秋冬 (6) 高橋重幸 34

カルメルにおいて「新しい福音宣教」を考える (2) 中川博道 28

わたしは教会の娘です… 中山真里 22

イエスの聖テレサの中の「共同体」 松田浩一 15

アピラのテレサとエヴァリタ・シユタインの霊的絆 (2) 須沢かおり 9

現代における「従順」の意味 (4) 九里 彰 3

● 目次 ●

| | | | | | | | | | |
|--------|------------------|------------------------------------|--------------|----------------|--|--------------------|--|--------------------|--|
| ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● | ● 目次 ● |
| テレジアの涙 | 「完徳の道」に見る「祈りと生活」 | アピラの聖テレジア(アヴィラの聖テレサ)の「創立史」にみる信仰の歩み | 神の住いであるわたしたち | — 『靈魂の城』に聴きながら | 三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯 | 地上に苦しむキリストの神秘体との連帯 | 三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯 | 地上に苦しむキリストの神秘体との連帯 | 三位一体の神との交わりの崇高な神秘体験、地上に苦しむキリストの神秘体との連帯 |
| 新井延和 2 | 九里 彰 10 | 松田浩一 22 | 中川博道 35 | 中川博道 35 | 渡辺幹夫 46 | 渡辺幹夫 46 | 渡辺幹夫 46 | 渡辺幹夫 46 | 渡辺幹夫 46 |

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+ 送料【700円】計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

2013年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】 1泊2日 (午後5時～午後4時)

| | |
|-------------------------------|--------|
| 5月25日(土)～26日(日) 三位一体の中で祈る | 今泉健神父 |
| 7月13日(土)～14日(日) 信仰宣言に生きるカテキズム | 松田浩一神父 |
| 9月7日(土)～8日(日) 牧者キリスト | 今泉健神父 |
| 11月2日(土)～3日(日) 信仰と行い | 九里彰神父 |

【聖書深読黙想会】

- 1日黙想 (午前10時～午後4時)

| | |
|-----------|-------|
| 2月2日(土) | 九里彰神父 |
| 4月6日(土) | 九里彰神父 |
| 6月1日(土) | 九里彰神父 |
| 9月14日(土) | 九里彰神父 |
| 11月30日(土) | 九里彰神父 |

- 水曜の黙想 (午前10時～午後4時)

| | |
|---------------------------|--------|
| 2月27日(水) 祈り、節制、愛の業 | 今泉健神父 |
| 3月20日(水) 十字架 | 今泉健神父 |
| 4月17日(水) 復活の信仰 | 九里彰神父 |
| 5月15日(水) 信仰年における聖母マリア | 松田浩一神父 |
| 6月26日(水) 靈魂の城 | 今泉健神父 |
| 7月24日(水) 信仰の種 | 九里彰神父 |
| 8月4日(水) キリスト信者の靈的生活のカテキズム | 松田浩一神父 |
| 9月16日(水) アピラの聖テレジアとイエス | 今泉健神父 |
| 10月13日(水) キリスト教神秘を祝うカテキズム | 松田浩一神父 |
| 12月18日(水) クリスマスを迎える心 | 今泉健神父 |

- 四旬節の黙想 (午後5時～午後4時)

| | |
|-----------------|-------|
| 3月2日(土)～3月3日(日) | 今泉健神父 |
| 光への飢え渴き | |

- 待降節の黙想 (午後5時～午後4時)

| | |
|---------------------|--------|
| 12月14日(土)～12月15日(日) | 松田浩一神父 |
| 人間となった神の子への信仰 | |

- 聖テレーズの黙想 (午後5時～午後4時)

| | |
|-------------------|-------|
| 9月30日(月)～10月1日(火) | 伊従信子師 |
|-------------------|-------|

【キリスト教霊的同伴】

(午後 8時～午後 3時) 限定10人

5月2日(木)～5月6日(月)

松田浩一神父

カルメル青年黙想会 (午後5時～午後4時)

4月28日(日)～4月29日(月)

今泉健神父

キリストの呼びかけに従う

11月9日(土)～11月10日(日)

今泉健神父

キリストはあなたを呼んでいる

【一般のためのカルメルの霊性入門】

2月9日(土)～2月10日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父

「イエスの聖テレサの新しい人間への道」

3月16日(土) (午前10時～午後4時)

古川利雅神父

10月26日(土)～10月27日(日) (午後5時～午後4時) 松田浩一神父

「テレサ的カルメルの霊性 No.1」

奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

8月2日(金)～8月11日(日)

松田浩一神父

8月17日(土)～8月26日(月)

今泉健神父

12月27日(金)～1月5日(日)

松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

3月28日(木)～3月31日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】 チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11時

12月24日(火)～12月25日(水) {講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールで お名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にご利用いたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

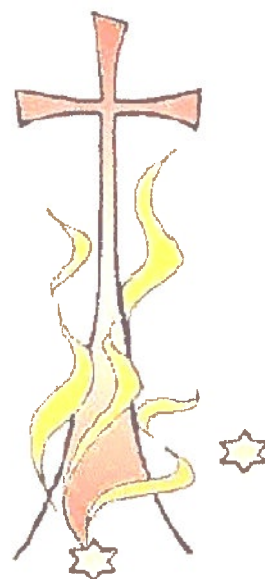
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人 30 分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6 人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|-------------------|
| ① | 2013年 | 1月25日(金)～26日(土) |
| ② | | 2月 8日(金)～ 9日(土) |
| ③ | | 3月 8日(金)～ 9日(土) |
| ④ | | 4月12日(金)～13日(土) |
| ⑤ | | 7月12日(金)～13日(土) |
| ⑥ | | 9月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑦ | | 10月11日(金)～12日(土) |
| ⑧ | | 11月22日(金)～23日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑩ | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ⑪ | | 2月21日(金)～22日(土) ☆ |
| ⑫ | | 3月28日(金)～29日(土) |
- (毎回金曜日 20 時(夕食なし)～土曜日 15 時)



【参加費】 各回 5,500 円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
 Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
 E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

…～都会の中の一日常修～（2013）…

(テーマ) 信仰年の課題 「イエス・キリストのセンスを磨く」 …2000年の時を貫いてきた教会の信仰…

「『信仰の門』（使徒言行録 14・27）は常にわたしたちに開かれています。それはわたしたちを神との交わりの生活へと促し、神の教会へと導き入れてくれます。神のことばがのべ伝えられ、わたしたちを造り変える恵みによって心が形づくられるとき、わたしたちはこの門を通ることができます。この門に入るとは、生涯にわたって続く旅に出発することです。

信仰は、それを愛が与えられる経験として生き、恵みと喜びの経験として伝えられることによって、成長します。信仰はわたしたちを豊かにします。」（「信仰の門」より）

今年の信仰年は、わたしたちを「キリストのように考え、キリストのように話し、キリストのように行い、キリストのように愛する」ことへと招いています。この呼びかけに従って生きることは、わたしたちの中にキリストのセンスを磨いていきます。

「一日常修」が、信仰のうちにキリストを生き抜いた先達たちの生き方に学ぶ一助となりますように。

| 回 | 月 日 | テーマ | |
|-----|-------------|----------------------------------|--------------------|
| 第1回 | 1月14日(月) | 信仰年を生きる「信仰の門」を巡って —イエスご自身の信仰— | 中川博道神父(上野毛修道院) |
| 第2回 | 2月23日(土) | マリアの信仰 | Sr.パウリン(宣教カルメル修院) |
| 第3回 | 3月23日(土) | テレーズの信仰 | 三上和久神父(三馬修道院) |
| 第4回 | 4月13日(土) | 使徒たちの信仰 | 今泉健神父(宇治修道院) |
| 第5回 | 5月11日(土) | 初代教会の信仰 | 松田浩一神父(宇治修道院) |
| 第6回 | 6月22日(土) | 殉教者の信仰 | 九里彰神父(本部修道院) |
| 第7回 | 7月13日(土) | イエスの聖テレサの信仰 | 古川利雅神父(上野毛修道院) |
| 第8回 | 9月7日(土) | 聖家族の信仰 家庭・職場・地域で信仰を生きる | 伊従信子師(ノートルダム・ド・ヴィ) |
| 第9回 | 11月23日(土・祝) | 十字架の聖ヨハネの信仰 | 福田正範神父(上野毛修道院) |

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
- * 参加費 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
- * 定員 約30名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り・導入・黙想
 - 10:30～ 講話(1)
 - 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 11:50～ 昼の祈り・お告げの祈り
 - 12:15～ 昼食
 - 12:50～ 黙想・赦しの秘跡または面接
 - 13:30～ 講話(2)
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会・分かち合い
 - 16:00～ 終了予定

☞ 申し込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL、(所属教会)を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一日常修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685

2013年度名古屋聖書深読会

第1回 10月26日(土)

九里彰神父(本部修道院)

- 時間 午前10時～午後4時
- 場所 カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約5分 *聖テレジア幼稚園隣接
- 参加費 ￥1000
- 持ち物 聖書・筆記用具・ノート・昼食等

* 事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

* 申し込みは、開催日の3日前までに Fax またはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名もご記載下さい。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教え(み言葉)に関心のある方なら、どなたでも構いません。

☎ 申し込み先

名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17

カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

☆ 連絡係

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115

小林 厚・晃子

TEL/FAX 052-701-3685

土曜フレックスタイム静修

毎月第3土曜日 13:30 ~ 16:00 の予定で行います。

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき（来る時間も帰る時間も自由）、
靈的にだけでなく、心身ともにリフレッシュできる時間として御利用下さい。

日時 毎月第3土曜日 13:00 ~ 16:00

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

13:30 ~ 15min. 聖書朗読、短い講話

14:30 ~ 15min. ベネディクション、聖体顕示

15:30 ~ 15min. 聖体拝領

16:00 ~ サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です。



靈性センター

毎月第2日曜日 14:00 ~ 15:00 カルメル靈性センターの講話があります。

日曜日、午後の一時、心の耳を澄ませてみましょう。

日時 毎月第2日曜日

場所 三馬教会（石川県金沢市）

プログラム

14:00 ~ 講話（講師：カルメル会士）

15:00 ~ ミサ

カルメル靈性センター

〒 921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内



「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

少しの時間、**新刊案内**
いのりのみ言葉に
耳をかたむけてみませんか

わたしは神をみたい **いのりの道をゆく**
マリー・エウジェンヌ神父とともに



伊従信子編・著

師は、神と親しく生きるように神が多くの人々を呼んでおられること、そして、その人々を神との一致にまで導くように、神が自分を召されたことを自覚していました。ですから、師はその生涯の終わりまで、社会で日々の生活を営むすべてのキリスト信者が聖性に召されていることを強調し、聖性への道を提供する務めを使徒職とする人々の養成を熱く望んでいました。
〔「はじめに」より〕

ISBN978-4-88216-339-8 C0195

268 281頁 定価630円(税込)

▼▼▼こちらもおすすめ!▼▼▼



神と親しく生きる **いのりの道**

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール/J. ギシャル著

伊従信子訳

現代の狂騒の中で、大切な何かを見失っていないだろうか……真理、善、美、生きる意味、神との関わりを捜し求めている人たちへ送るメッセージ。

ISBN978-4-88216-307-7 C0195

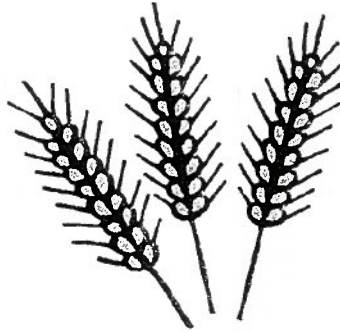
246 207頁 定価525円(税込)

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

ご注文・お問い合わせ先



諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC（キリスト者婦人の集い）
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2013年予定

- M 1 2/24 (日) -3/2 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- N 1 3/6 (水) -3/12 (火) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 2 4/6 (土) -4/12 (金) 東京・小金井・聖霊会
- S 1 4/14 (日) -4/20 (土) 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会
- N 2 5/2 (木) -5/8 (水) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 3 6/7 (金) -6/9 (日) 東京・小金井・聖霊会 (研修会 2泊3日)
- M 2 6/23 (日) -6/29 (土) 宝塚売布・女子御受難会
- T 1 7/22 (月) -7/28 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- K 4 8/24 (土) -8/30 (金) 東京・小金井・聖霊会
- M 3 9/10 (火) -9/16 (月) 宝塚売布・女子御受難会
- N 3 9/28 (土) -10/4 (金) 滋賀唐崎・ノートルダム
- K 5 10/12 (土) -10/18 (金) 東京・小金井・聖霊会
- T 2 10/28 (月) -11/3 (日) 兵庫西宮・女子トラピスチヌ
- N 4 11/25 (月) -12/1 (日) 滋賀唐崎・ノートルダム

イエス様に祈りを学ぶ

真命山の靈性



祈りの集い（午前10時～午後3時）
年間の一般のテーマ： イエス様に祈りを学ぶ

自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり

- 1月10日 ナザレの聖家族の生活における祈りの重要性
- 2月14日 イエスの生涯における祈り
- 3月14日 死を前にしたイエスの祈り
- 4月11日 最後の晩餐におけるイエスの祈り
- 5月9日 イエス・キリストのメシアとしての喜びの賛歌
- 6月13日 いやしの奇跡とかかわるイエスの祈り
- 7月11日 主よ、私たちに祈りを教えてください！
- 8月 休み
- 9月12日 イエスの「大祭司の祈り」（ヨハネ17）
- 10月10日 神との関係における沈黙の大切さ
- 11月14日 イエスと神殿（ルカ2,46 ヨハネ2,21）
- 12月12日 神の「幕屋」であるイエス（ヨハネ1,14）

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ サルティ・サルトリ
神父
Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133
熊本県玉名郡和水町1391-7
真命山諸宗教対話・靈性交流センター
TEL 0968-85-3100
Fax 0968-85-3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の
思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト
教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関
してHP(文末)を見て下さい。
冬学期: 近代後半・現代の霊性と思想 (18世
紀～21世紀初頭)

01/12、01/19、01/26、02/02、02/09

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45
分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。8月14日、28日はク
ルトウルハイム聖堂。
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40
分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月7日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥル
ハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全
体、10月31日、1月2日は休み。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内SJハウ
ス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
2013年2月2日、3月2日
・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50
分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙想会

2013年2月16日(土)10時～17日(日)14時(東村山)。1泊
6600円程度。

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し祝日、
4月5日は休み。3回坐り、間に講話。

●坐禅接心

秋川神冥窟。1泊2400円(+暖房費)程度。

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18
時)。上智大学内SJハウス第5会議室
2013年1月26日(土)



リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2012～3年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 01/18: 霊の動き— 福音による生き方
- 01/25: 秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰
- 02/01: 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方
- 02/08: 結婚と独身— 愛の道
- 02/15: 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている
- 02/16-17: ●黙想会(東村山)
- 02/22: 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄与して働く
- 03/01: 人間の苦悩— 悪とは何のためか
- 03/08: 死— その受け入れと克服
- 03/15: 人生の完成— 神の内に生きる
- 03/22: 聖母マリア— 信じる者の原型
- 03/29: ○休み
- 03/31: ◆復活祭のミサ(14時、上智大学内クルトゥルハイム2階、80人限定)



リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2012～3年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[教会]

- 01/29: 救いのしるしと実現— 秘跡の意味
- 02/05: 憐れみと愛の祝い— 罪のゆるしとミサ
- 02/16-17: ●黙想会(東村山)
- 02/19: 「聖徒の交わり」— 世界の只中のキリスト
- 03/05: 人間と世界の究極の未来— 終末の約束
- 03/19: 信仰者の原型— 聖書と教会の教えに見られるイエスの母
- 03/31: ◆復活祭ミサ(14時、クルトゥルハイム2階、80人限定)



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2013年
2月9日（土）

講話 伊従信子 片山はるひ

午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

信じます
わたしをお助けください
勇気のないわたし

2013年 召命黙想会

日時：**2月16日(土) 15:00～**
17日(日) 15:30まで

場所：ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導：山内 十束 神父（御受難会）

対象：独身女性信徒

費用：2,000円

締切：2013年2月7日(日)

＜申し込み・問合せ＞

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1
ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川
Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804
Email karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

- ◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com
- ◎ 交通： JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約13分
- ◎ 日程：
A. 8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。
① 3月 5日(火)～ 3月13日(水)
② 8月14日(水)～ 8月22日(木)
③ 9月27日(金)～ 10月 5日(土)
④ 12月27日(金)～ 2014年1月 4日(土)
- B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】
① 2月 8日(金)～ 10日(日) ② 4月 5日(金)～ 7日(日)
③ 5月 3日(金)～ 5日(日) ④ 6月14日(金)～ 16日(日)
⑤ 7月 12日(金)～ 14日(日) ⑥ 11月 1日(金)～ 3日(日)
⑦ 11月 29日(金)～ 12/1日(日)
- C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)
5月26日(日)～6月3日(月) 北村 善朗 師 (京都教区)
- ◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。
- ◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他
- ◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
- いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順11名です。
- ◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

| コース | 日時<指導者> | 指導者 | 開催場所 | 申込み |
|------------------------------------|---|---------------------|---|------------------------------------|
| 自己を知る *1泊2日× 2=合計4日 | 3/9(土)9:30? 3/10(日)17:00 3/16(土)9:30? 3/17(土)17:00 | Fr植栗 | 那須・聖ヨゼフ山の家 | 若山美智子※ Tel/fax 03-5802-3844 |
| 入門A サダナII | 4/21(日) 9:30? 17:00 4/25(木)17:30? 4/29(月)16:00 | Fr植栗 Fr植栗 | 援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷) 三位一体聖体宣教会 (東村山) | 若山美知子※ 若山美智子※ |
| ダイアリー 自己を知る *1泊2日× 2=合計4日 | 5/2(木)17:30? 5/6(月)16:00 5/11(土)9:30? 5/12(土)17:00 5/18(土)9:30? 5/19(土)17:00 | Fr植栗 Fr植栗 | 三位一体聖体宣教会 (東村山) 町田祈り・研修の家 | 若山美智子※ 若山美智子※ |
| サダナI 日帰り (注) | 5/30(木)17:30? 6/2(日)16:00 6/9(日) 9:30? 17:00 | Fr植栗 Fr植栗 | 沖縄・聖クララ修道院 Tel:098-945- 8649 Fax:098-945-8720 援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷) | 申込み: Sr 比嘉 若山美智子※ |
| 入門B サダナI | 6/23(日) 9:30? 17:00 7/12(金)17:30? 7/15(月)16:00 | Fr植栗 Fr ラフオント | 上石神井黙想の家 女子御受難会修道院 (宝塚) | 若山美智子※ 大倉本子 Tel:078-811-2706 |
| サダナI | 7/12(金)17:30? 7/15(日)昼食 | Fr植栗 | 小金井聖霊修道院 | 若山美智子※ |

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り=サダナIを終えた方

*サダナI=体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナII= Iをいっそう深める。身体・感情・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

2月12日(火) 『完徳の道』第28～第29章

4月9日(火)、6月11日(火)



九里彰神父 (カルメル会日本管区長)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会信徒会館3Fアルペホール 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂 (ミサ有り)

2月13日(水) 『靈魂の城』第4の住居の第2章

4月10日(水)、6月12日(水)

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

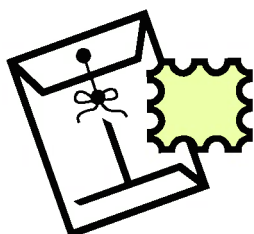
* 参加費無料 (献金歓迎)

* 問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



『霊性センターニュース』年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。

例：1月申込の場合は、2月号～12月号（8月号休刊除きます）

この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1764

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

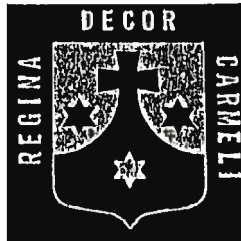
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

先日、北海道から中部空港に着き、そこから電車で金山に向かった（約30分かかる）。その途中、ある重要書類を飛行機の中へ置き忘れて来てしまったことに気づいた。飛行機の中でずっと読んでいて、着陸の時、座席のポケットに押し込んだのである。ゴミとして処理してくれれば問題はないが、外へ漏れると困るというしるものであった。金山の駅から藁をもすがる思いで、空港に連絡すると、それらしきものが届けられていると言う。大喜びで、大きなバッグと鞆は駅のロッカーに入れ、手ぶらとなり、再び電車で空港にもどり、カウンターに行く。中身が何かを言わされ、内容が合っていれば、手渡されることになっており、一致していたので、用紙に必要事項を記入するように求められた。

ところが、何と自分の名前やフライト番号や座席番号は書けたが、住所と電話番号がうろ覚え。いつも携帯している手帳や名刺が手元になく（鞆の中！）、書くのに時間がかかった。スタッフのうさんくさいまなざしを意識しながら、書類を受け取る。あの時書いた住所と電話番号には、あまり自信がない。（P. 九里）



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、原則として毎月第四火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「3月号」製本日

2月26日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1 階

午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171